

同 志 社 大 学

2009 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010 年 3 月 31 日提出

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|------------------------|---|-------|
| 文学部 | 教授 | 松藤 和人 |
| 研 究 題 目 | 東北アジアにおけるレス-古土壌編年層序にもとづく旧石器編年 | |
| 研 究 成 果 の 概 要 | <p>2009 年度は、中国吉林省内でのレス（黄土）一古土壌調査を計画していたが、カウンターパートの吉林省文物考古研究所から申請された同省内での日中共同研究プロジェクト（各種サンプリング）に対する国家文物管理局の承認が得られず、夏期休暇中に予定していた現地調査が実施不可能な状態に至った。</p> <p>その直後に、共同研究者の 1 人である成瀬敏郎兵庫教育大学名誉教授によって島根県出雲市砂原で古土壌、火山灰絡みで旧石器発見の報が伝えられ、予備調査（8 月 23～25 日）を経て、砂原遺跡学術発掘調査団を組織し、地質、地形、年代学、古地磁気学の専門研究者を糾合し本格的な調査（9 月 16 日～29 日）を実施した。</p> <p>調査の結果、遅くとも 7 万年前以前にさかのぼる旧石器が確認された。これは日本最古級の遺跡となり、一躍マスメディアの注目するところとなった。NHK 松江放送局は、この遺跡の調査成果について特別番組を企画し、調査団としてもその制作に協力した。</p> <p>その調査成果の概要については、中四国旧石器文化談話会（10 月）、北京国際シンポジウム（10 月）、北アジア遺跡研究報告会（2010 年 3 月）で発表した。</p> <p>10 月から年度末まで、砂原遺跡の整理およびデータ解析、周辺地質調査につとめた。現在なお、本報告に向け整理は継続中である。</p> <p>一方、2001 年以降の日韓、日中共同研究の成果を一般に周知するための啓蒙書『日本と東アジアの旧石器考古学』（1 月、雄山閣）を刊行した。</p> | |